

研修会「地域とつなぐ～子ども・若者の自立のために～」

社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会
〒501-6232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴 719 番地 1

助成事業の概要

不登校、ひきこもり、虐待、ひとり親家庭、障がい、非行など様々な理由から生きづらさを抱え、居場所を失ってしまった子ども・若者たちがいます。今や「社会的孤立」は深刻な社会問題としてあり、各地で「子どもの居場所づくり」という名の取り組みが行われています。そこで、子ども・若者支援をテーマにした研修会を開催し、子どもたちの抱える生きづらさに気づき、支援の必要性を理解することで、地域の子ども・若者を見守り、支える人々を増やしたいと思えます。

オンライン研修会「地域とつなぐ～子ども・若者の自立のために～」 全3回開催

いずれも講演 (YouTube 申込者限定配信) と意見交換会 (Zoom ウェビナー使用) の2部構成

第1回 10月24日 (土) 13:30～16:00

参加者 32名 (視聴のみを含む)

講演 「子どもの声を聴く」

講師 元中央子ども相談所所長

石田公一さん

進行 ソーシャルワーカー

今井 (西田) 真美さん

第2回 12月11日 (土) 13:30～16:00

参加者 28名 (視聴のみを含む)

講演 「のわみの活動から見えてくる貧困と地域の実態」

講師 のわみ相談所代表理事 三輪憲功さん

進行 ソーシャルワーカー

今井 (西田) 真美さん

第3回 2月11日 (木・祝) 13:30～16:00

参加者 76名 (視聴のみを含む)

講演 「困りごとからはじまる地域づくり」

講師 NPO 法人青少年就労支援ネットワーク

静岡理事長 静岡県立大学国際関係学部

教授 津富 宏さん

進行 ソーシャルワーカー

今井 (西田) 真美さん

事業の成果

【第1回目 「子どもの声を聴く」】

児童養護施設職員時代、多くの子どもたちと交わり、自立支援に従事してきた経験から、子どもたちが抱える苦悩や葛藤の様子を事例紹介とともに話し頂いた。社会的養護を必要とする子どもたちは、虐待、障がい、非行、生活困窮など様々な生きづらさを抱えており、施設退所後に自立を目指すも、社会性の欠如、生活意欲の低下、間違った金銭感覚、人間不信などが自立を妨げていると指摘、結果として多くの子ども・若者が孤立状態にあるという現実を知った。事実、施設に居る時は職員や制度に守られているが、退所後には支援が途絶えてしまい、たちまち生活苦に陥ったり、音信不通になったりするケースも少なくない。支援者とつながっていれば、子どもたちからのSOSに気づき、応えることができることから、退所後の支援 (アフターケア) の必要性を訴えた。一方で事例の中には、失敗を繰り返しながらも仕事や学業に励む子、将来の夢や理想の家庭像を嬉

しように語る子など、逆境にあっても前向きに生きようとする子どもたちの姿も見られ、その明るさ、たくましさに心打たれた。

【第2回目 「のわみの活動から見えてくる貧困と地域の実態」】

一宮市を拠点に生活困窮者支援に取り組む「のわみ相談所」は、自立支援における「住まい第一主義」を抱え、地域資源の活用と独自のネットワークで多岐にわたる事業を展開、地域の支援体制を整えることで、これまで多くの生活困窮者の自立を支えてきた。住まいと食事の提供、仕事の確保、衣類、家電、日用品の準備まで生活全般支援を行う「のわみ」には、日々各地から相談が寄せられ、その支援力を実感した。資格取得のための援助、社会制度や生活知識を身に付ける勉強会、基金による経済的援助など自立後も継続的に支援し、生活の安定化を図るための支援も不可欠だと学んだ。講演では、ひとりのホームレスとの出会いを機に生活困窮者支援をはじめ、今日までその活動を続けてこられた講師・三輪さんの強さや優しさが随所に感じられ、その温かな人間性に支援者としての絶対的な安心感を覚えた。

【第3回目 「困りごとからはじまる地域づくり」】
「働きたくても働けない」という困りごとから広がっていく地域支援のかたちを「静岡方式」の魅力に触れながらお話し頂いた。就職を決めるまでの圧倒的なスピード感、近所のおじさん・おばさんをも支援者にしてしまう巻き込み力、すきなもの・すきなこと・ひとに着目した職探し、いい人がいい人を連れてくるネットワークなど「静岡方式」独自の発想と手法は、驚きと発見の連続であり多くの気づきを得た。職探しにかかわる人々の出会いや働くことでつくられる人間関係が、その人の生活を変え、人生をも変えていくことから、就労支援は地域とつながるためのプロセスだと理

解した。

また就労支援とは、就職するための支援ではなく働き続けるための支援であること、仕事を続けることよりも支援者とつながり続けていることのほうが重要だと説き、雇用主を探すことに力を注ぎ、仕事が見つからない、続かないことを問題視してきた支援のあり方を改めるきっかけにもなった。

コロナの影響により、全回ともオンライン開催に変更。当法人としては初の試みであり、慣れない環境下での研修会運営となったが、動作確認等のテストを何度も重ね、無事に終了できた。オンラインであっても、支援活動にかける想いや熱意は、言葉の節々に感じられ、講師たちからのメッセージとともに視聴者の心に届いた。

■ 成果の広報・公表

講演視聴は、YouTubeによる申込者限定配信としていたが、研修会終了後に（見逃してしまった、申し込みをし忘れた、もう一度聞きたいなどの）問い合わせがあり、配信期間を延長して対応した。講演内容を繰り返し見ることによって理解が深まり、より確かな学びを得ることができるのは、オンライン開催のメリットでもある。今回はFacebookからの申込が多く、その利便性と拡散性から、広報活動においてもFacebookを活用、終了後は研修会の様子をダイジェスト版に編集して配信、事業報告とした。

また当法人の職員には、LINEワークスを使って研修案内および報告をし、情報共有を図った。

■ 今後の展開

どの支援の現場でも、継続的支援の必要性と人とのつながりの価値に触れ、孤立状態にある子ども・若者はいつでも、誰かとのつながりを求めている

ことを知った。特別な資格や技術がなくても思いがあれば誰でも支援者になれるし、当事者（困りごとを抱えている人）もまた誰かを助け支えることができる、そうやって人と人のつながりを深めていくことでコミュニティが育てられていくことを学んだ。

コロナ禍の今、人とふれあうことや一緒に活動することへの警戒心からコミュニケーション不足となり、支援活動の行き詰まりを感じていたが、オンラインであっても、相手の言葉に共感したり、刺激を受けたり、人柄に魅せられたりと、コミュニケーションの手段は様々だと再確認できた。

今後も研修会の開催を継続し、社会問題としてある「子ども・若者の孤立」が身近な地域課題としてあることに気づき、生きづらさへの無理解が新たな孤立を生むという事実を伝えていく。そして支援現場からの声を届けることで、当事者の「困りごと」を解決するために一緒に動いてくれる仲間（支援者）を増やしていく。人とつながり続けていくことも支援のひとつだと知り得た私たちだからこそ、地域とつなぐための取り組みを続けていきたい。